

中学校国語研究部

I 研究主題

学び合いを通して思考力、判断力、表現力の育成を図る授業の研究
(言語事項教材を使って)

II 主題設定の理由

改正学校教育法において、「基礎的な知識及び技能」、「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力」、そして「主体的に学習に取り組む態度」の三つが、学力の三要素として明確に規定された。その中でも、知識をただ知識としてのみ身に付けさせるのではなく、必要な知識を選んだり、他の情報とつなぎ合わせたり、分析したりして、実際の場面や複雑な場面において使えるようにする力が求められているところに今回の改正の大きな特色がある。

本研究部では、そうした力を育てるための指導方法や学習形態の工夫改善の一つの手だてとして、学び合いに注目した。元来「まなぶ」という言葉は「まねる」という言葉からできているように、子供たちは、他者の考え方や意見を聞いて、また自分の考え方や意見を述べて、互いに影響を受け真似をし合うことによって学んでいく。従来の一斉指導による授業だけではなく、話し合いや学び合い活動を積極的に取り入れることで、人の意見を聞いて判断したり、そこから新たな思考を開始したり、頭の中の考えを言葉として人に解るように表現したりという、課題を解決するために必要な能力がはぐくめると考えたからである。と同時に、自分たちで課題を解決していく中で、様々な能力を持った子供たちに活躍の場が生まれ、学力の三要素の一つである、主体的に学習に取り組む態度も養えると考えた。どのような場面・課題・形態で学び合いを取り入れたら効果的に思考力、判断力、表現力の向上が果たせるのか。また、教師がどのような場面・タイミングで、どのように支援したら児童生徒の活動を活発化させられるか、言語事項教材を題材として検証していくことにした。

III 研究の内容

＝ 仮説 ＝

課題を明確にし、児童生徒が互いに学び合えるような場面や形態を工夫することにより、思考力、判断力、表現力は向上する。

1 手だて

(1) 思考力、判断力、表現力の向上を目指した指導法の工夫

①思考力、判断力、表現力を向上させるための指導法として、学び合い活動を取り入れるメリットと留意点について研究する。

②学び合いを取り入れるのに適した課題や場면을研究し、授業実践を通して検証する。

(2) 児童生徒の学び合いを促す教師の支援の仕方

- ①児童生徒が互いの良さを認め合ったり、互いの刺激によって高め合ったりしていけるような教師の支援の仕方を研究する。
- (3) 学力の向上を測定できる評価の工夫
- ①学び合いにおける児童生徒の相互評価や自己評価の活用
- ②テストの数値として表れにくい、思考力、判断力、表現力などの向上を評価する方法(ルーブリック)の研究

IV 実践例【1】

中学校第1学年 国語 所沢市立柳瀬中学校 猪口 茂

- 1 単元名 文の成分
- 2 本時の流れ

	学 習 活 動	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価 (☆)
導 入	1 前時までに理解した「文の成分」について確認する	どの文節が文のどの成分に当たるか確認する。	・文法の苦手な生徒も、興味を持って前時までの確認ができるよう、パズル形式で確認する。
	2 本時の学習目標を確認する。	学習目標を書く 「文の成分を実際の表現に生かす」	☆学習のねらいがわかり、本時の課題に興味を持って参加しようとしているか。
展 開	3 主述の関係にねじれのある文について、おかしい理由を説明し、正しい形に整える。	グループごとに、異なるねじれのある文に取り組む。	・各自で考える時間をとり、自分なりの意見を持った後で、それを持ち寄り、4人のグループで、それぞれの考えたことを話しあう。
	(1) 各自で考え、プリントに記入する。 個人	・私が今朝起きたのは、家中で一番早い六時に起きました。 ・ぼくがいつも思うことは、計画だけは立てるのだが、どうしてもそれが実行できない。 など	※内容が変わらなければ、言葉を省いたり、付け足したりしても良いことを伝える。
		<p>その後の話し合いの中身を深めるためには、各個人が自分の意見を持ってから参加することが必要である。つまりいている生徒には、個別に話を聞いてつまずきの原因を探り、考えを整理できるように手助けをする。</p>	

	<p>(2) 各自の考えを持ち寄ってグループで話し合う。 小集団</p> <p>他者の意見を聞き、更にそれから「じゃあこれは」という形で考えを広げている者が多かった。</p> <p>4 グループでの話し合いの内容を発表し合う。 一斉</p> <p>話し合いの内容を、大きな声で、他の人に分かりやすく発表する。</p> <p>クラスメイトの発表をしっかりとした態度で聞く。</p> <p>グループのだれが突然指名されても発表できるよう、互いに話し合った内容を互いに教え合うことで理解を深めていた。</p>	<p>ねじれた文の直し方も、一つではないことを知る。</p> <p>おかしい理由を自分たちが理解し、他の人にもわかりやすく説明できるようにまとめる。</p> <p>他グループに説明するために、話し合った内容を模造紙にまとめる。</p> <p>話し合いの内容を、大きな声で、他の人に分かりやすく発表する。</p> <p>クラスメイトの発表をしっかりとした態度で聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 複数の正しい形が出たグループには、なぜいくつかの直し方があるのか考えさせることで、主部と述部のねじれについて気づかせる。 話し合いの進まないグループには、 <ol style="list-style-type: none"> ①文の成分について整理する。 ②主・述の関係について考えてみる。 グループでの話し合いの進具合に応じて、①②の順でアドバイスする。 ☆協力してグループでの話し合い活動に参加できているか。 ☆主部と述部の関係に注意して文を整えることができたか。 ☆おかしい理由を、他の人にわかりやすく説明できるよう、工夫できたか。 ・早くまとめ終わったグループには、他グループの課題についても取り組ませる。 ・グループのだれが指名されても発表できるよう、互いに話し合った内容を確認する。 ・こちらで指定した席に座っている生徒が発表する。 ・発表したあと、質問を受け付ける。 ☆みんなに聞きやすいように発表できたか。 ☆おかしい理由を、他の人にわかりやすく説明できたか。 ☆他のグループの発表を、しっかりと聞くことができたか。 ☆主・述の関係の大切さを知ることができたか。
まとめ	<p>5 (1) 本時のまとめをする。 (2) 次時の内容を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ☆本時のまとめをしっかりと行おうとしているか。

自己評価による理解度の変化

具体的な理解度	文を初めて見た時	話し合いの後
正しく直せ、なぜおかしいのか説明できる。	2	2 7
直し方は解るが、なぜおかしいのかは解らない。	8	7
何となくどこかおかしい気がする。	1 2	1
おかしいところはない。又は、解らない。	1 3	0

3 学力の向上を測定できる評価の工夫

この場面で考えられるルーブリック

【知識を活用した判断力】

レベル	求められる具体的な姿(評価基準)
5	自分が正しく理解できていると共に、まだ理解できていない他の人を納得させている。
4	正しい言い方に直すと共に、理由も説明できている。
3	正しい言い方に直せてはいるが、なぜおかしいのかその理由は上手く説明できない。
2	何となくおかしいことに気付いてはいるが、どう言い直せばいいか解らない。
1	表現の仕方におかしいところがあることに気が付かない。

【話し合い活動(思考力・表現力)】

レベル	求められる具体的な姿	良く見られる質問
3	共通点を見つけたり、何かの基準によって並べ替えたりして系統立てて考えている。 出された意見に対して質問したり、理由を述べて反論したりしている。	～はいいけれど、～は変だと思う。 ～の時はどうするの。 【分析】
2	人の発言に刺激を受け新しい物に気づいている。 いくつかの意見の良い所をくっつけて、一つの意見としてまとめている。	～はどうしてですか。 ～はなぜですか。 ～は～のことですか 【理解】
1	自分の知っていることを出し合っている。 それぞれが自分の意見を発表している。	～は、何ですか。 【知識】

4 実践の成果と課題

最初、どこがおかしいのかさえ分からなかった生徒が学級の1/3を占めていた。しかし、個人で考えをまとめた後、グループでの話し合い活動を行うことによって、生徒は自分とは異なる他者の視点があることを知り、同じ課題に対しても必ずしも答えは一つではないことに気が付き始めた。そして、人の意見を聞いたり、自分の考えを主張したりと、学んだ知識を繰り返し使うことで、場面によって適応の仕方を変えていく、その法則を習得し始めた。その結果、この単元が終わるときには、ほぼ全員が主述関係のねじれた文を正しい文に直せるようになるとともに、更に学級の2/3の生徒はその理由を他者に説明できるまでになった。

ルーブリック自体については、試行錯誤の状態である。ただ、普段感覚的にやっていたことを、ルーブリックとして改めて言語化してみることで、課題に対する評価基準を自分の中で明確にすることができた。更に、あらかじめルーブリックによって目指す目標を明確にすれば、そこへ向けて指導すべき内容もはっきりさせやすいとも考えた。ただ、各グループで異なる問題を解き、それぞれの問題の難度に差がある場合、思考力、判断力を評価するのに、難度の違いをどうルーブリックに反映させればいいのかは今後の課題である。

文の組み立て

正しい文に直そう

- ① 私が今朝起きたのは、家中で一番早い六時に起きました。
()
- ② ぼくがいつも思うことは、計画だけは立てるのだが、どうしてもそれが実行できない。
()
- ③ 私が合唱コンを通して思ったのは、良い合唱を作るためにはやはり協力することが大切だと思いました。
()
- ④ 私は、A案の方がB案より優れているのではないか。
()
- ⑤ この計画で問題なのは、実行に移すことが極めて困難だ。
()
- ⑥ 私の希望は、作家になりたいと思っています。
()
- ⑦ 私が好きな物は、甘くておいしいアイスクリームが一番好きです。
()
- ⑧ 冬の良いところは、気持ちが引きしまる。
()
- ⑨ 今年の目標は、絶対に遅刻しない。
()
- 一年 組 ()

IV 実践例【2】

中学校第3学年 国語 所沢市立向陽中学校 小山義昭

1 単元名 文法の広場②「コミュニケーション」

2 本時の流れ

	学習活動	学習内容	指導上の留意点(・)・評価(☆)
導 入	○漢字練習	新出漢字の練習	・落ち着いて集中できる環境を作る。
	1 本時の説明および目標の確認	よりよいコミュニケーションについて考える。	<p>「それ貸して」「鉛筆貸して」「あれ取って」など、生徒との会話を通して、コミュニケーションの基本が理解できた。</p> <p>・表現について、文法的な組み立てと意味を理解し、日常のコミュニケーションにおいて、どのような表現が適切か考えよう。</p>
展 開	2 例文1を考える。(個人)	例文1 「みんなが大好きな先生」という文の意味を考える。	☆二つの意味があることに気づいたか。
	3 例文2を考える。(個人)	例文2 「みんなが大好きなケーキ」という表現について同じように考える。	深く思考させて気づかせる工夫が必要である。
	4 グループで読み合わせ、全体で発表する。(グループ)	グループで意味がどのようになっただかを確認する。その後内容を発表する。	3～4人の小グループなので、例文1の意味が一つしか考えつかなかったグループもあったが、クラスでの発表を行うことで、二つの意味があることに気づくことができた。
	(一斉)		

	<p>5 一つの意味になるように文を考える。</p> <p>(グループ)</p> <p>(一斉)</p>	<p>二つの例文を、内容のはっきり伝わる文に直し、各グループで発表する。(黒板に掲示)</p>	<p>・例文を内容のはっきり伝わる文に直すことにより、主述や係り受けなどを考えさせる。</p> <p>☆二つの例文を違う文で、一番わかりやすい文に直せたか。</p>
<p>内容のはっきり伝わる文にするために各自が考え、それを更に話し合うことで思考が深まっていた。</p>			
	<p>6 多義文について考える。</p>	<p>各グループで、あいまいな表現はどうすれば一つの意味の表現にできるか考え、発表する。</p>	<p>・先に個人で考え、その後グループで考えることで、よりよい表現を考えさせる。</p> <p>4 文法用語を使い、説明できる</p> <p>3 わかりやすい言葉で説明できる</p> <p>2 感覚で説明できる</p> <p>1 うまく説明できない</p>
<p>まとめ</p>	<p>7 本時のまとめをする。</p> <p>○次時の予告</p>	<p>あいまいな表現があることを知り、自分の意志を相手に正確に伝えるために、日常のコミュニケーションの中での言葉の果たす役割について理解する。</p>	<p>☆日常のコミュニケーションに使われる言葉を、語順を変えたり読点を打ったりすることで、より適切に表現することが理解できたか。</p>

3 実践の成果

(1) 生徒アンケート (32人回答)

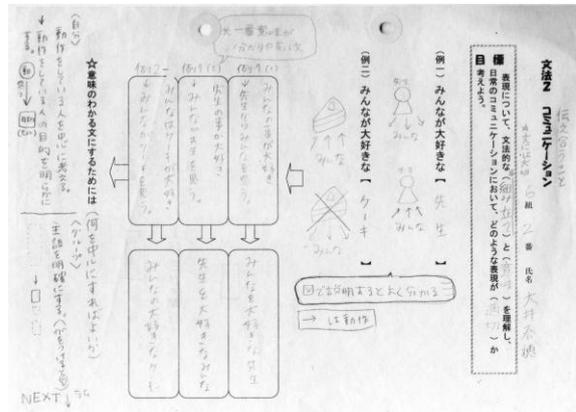
	できた	大体できた	少し不安	できない
二通りの文があることが、理解できましたか。	<u>23</u>	6	1	2
二通りの文を、作ることができましたか。	<u>14</u>	<u>14</u>	2	2
二通りの文の、文法的な説明ができるようになりましたか。	7	<u>18</u>	4	3
授業前と後では、あやふやな文をはっきり分けられるようになりましたか。	<u>13</u>	11	7	1

(2) 授業後の感想

~~~~~線は、思考・判断・表現についての感想が記入してある部分

====線は、思考が深まった部分

- ・ 少人数の班を組むことで、自らの意見を言いやすくなったし、黒板の上で行う授業よりも充実した時間だったと思います。同じ意味を示す文でも、クラスの中で様々な言い方があると分かりました。
- ・ 今回の授業の文法的な説明ができ、活用できるようになったと思います。紙に班ごとにまとめて発表するというやり方で、6通りの考えそれぞれ意味があることを知り、とてもやりがいのある授業だったと思います。今後このような授業で学んだことを、コミュニケーションをとる上で活用したいと思います。
- ・ 一つの文でも、受け取る側ではいろいろな意味になって伝わってしまうことがわかった。また、一つの文を違う意味にすることができるということもわかった。言葉はおもしろい！！と思えました。これからは、深く考えてみたいなあと思えました。
- ・ コミュニケーションの授業をやって、以前まであやふやになってしまっていた部分を、目的にあった形で表現できるようになったので、よかったです。また、班で話し合うことで、自分が考えていたことと全く違う意見が出たり、同じような考えをもっていたり、たくさんの方の見方がある(☆)ということも学ぶことができました。ここで学んだ将来にも役立てることができればいいと思います。
- ・ ややこしい文ばかりで頭がごちゃごちゃした。だけどいろいろ考えたら意味がわかった。
- ・ 自分で考えて表現するという点がおもしろかった。
- ・ 普段話している内容の中でも意味が分かりにくい、2通りにとれる内容があることに気づきました。その内容を自分で説明できるようになったと思います。



## (3) 成果

普段あまり意識せずに言葉を使っているが、コミュニケーションを円滑に行うためには、あいまいな表現を改め、適切な表現を心がけねばならない。今回の授業を通して、どのようにコミュニケーションをとったらより良い人間関係を保てるかを学習した。相手がいて初めてコミュニケーションが成り立つ。ならば、相手にどのように伝えれば、伝えたい内容がしっかり伝わるのか、気を配る必要がある。多義文は、一つの文で二つ以上の意味を持つ。そうした多義文を学ぶことで、あいまいさを無くし、自分の考えを正確に伝える方法を学ぶことができた。生徒の感想にもあるように、自分で考え、グループで他の意見

を確認し、さらに考えを深めるという主体的な学習形態が、思考力・判断力・表現力を向上させることにつながった。さらに、学習内容だけでなく、生徒は話し合い活動を通しての思考の深まりを実感し、「話し合う」活動そのものの有効性についても理解し、学び方についての思考も深めることができた。(授業後の感想\_\_\_\_\_ (☆) 印)

教師の支援体制については、研究を重ね、グループごとに異なる課題を解決できるような工夫をしていきたい。(グループの作り方や、グループ学習時の話し合いの様子で支援の仕方が変わる。)

## V まとめと課題

今回は、言語事項教材にグループによる学び合いを取り入れることで、思考力・判断力・表現力を向上させることができるのか研究した。

### 1 グループでの学び合いを取り入れるメリット

#### (1) 自他の意見を比較することができる

まずは自分で考え、発表(表現)する。そして、その上でグループの他の生徒の意見を聞くことで、自他の意見を比較したり、触発されて新たに考え始めたりと思考を深めることができた。さらに、グループ間の発表により、さまざまな考えに触れる場面も見られた。

#### (2) 意見を発表する抵抗感が減るとともに、発言の機会が増える

一斉授業ではなかなか発言や質問ができない生徒も、少人数のグループでの学び合いであれば、抵抗なく自分の意見を発言したり疑問点を質問したりしやすい。また、多人数だと参加していない生徒がいても話し合いは進んでしまうが、少人数のグループだとそれぞれの生徒が参加していないと学び合いが成立しないので、自らの頭で考えることが多くなり、結果として思考力を高めることにつながった。

#### (3) 学んだ知識を使う頻度が増加する

少人数グループでの学び合いでは、一人ひとりの発言の機会が増える。発言するためには、その拠り所として学んだ知識を活用することとなり、学習した内容を使う頻度が増えるので、自分のものとして知識の定着が図れた。そのことは更に、考え(思考)をまとめて言葉(表現)にする力をつけることにもつながっていた。

### 2 グループでの学び合いに適する教材

言語事項は、知識の習得が基本となる。しかし、今回の研究では、学んだ知識を活用して問題を解決させることで、思考は深まり知識の定着が図れると考え実践した。その結果、グループでの学び合いは、話し合いを通して多様な解決方法を導き出したり、多くの例の中から分類して法則性を見つけ出したりする学習で有効であった。

### 3 グループで学び合う際の留意点

#### (1) グループの人数は、4人程度が活動しやすい。

グループの人数が多いと自分の意見を考えず、話し合いに参加しない生徒が出

てしまう。逆に少ないと、多様な意見が出ずに話し合いがふくらまない。

(2) 均質な学力・考えでないグループ編成が望ましい。

同じ意見に偏りやすいので、考えが深まりにくい。

(3) 人間関係に配慮する。

話し合いのできる人間関係が築けているか。良好な人間関係が活発な話し合い活動を支えている。

(4) 聞き合える環境を作る。

聞くことができると、自分の考えと比較し、新たな考えを生み出したり、考えを深めたりして質問ができるようになり、質問することで、さらに考えを深めることができた。

#### 4 成果

言語事項教材を使って思考力・判断力・表現力を育成するために、グループ学習を取り入れた。まずは、自分で考えることから始まり、次にグループで他の生徒の考えを聞き、意見交換をすることで、さらに自分の考えが深まっていった。学び合うことは、伝え合うことである。自分の考えを相手に伝えるために、わかりやすい表現を考える。聞く側は、相手が何を伝えようとしているか、判断する。判断した中から新たな疑問が生まれ、質問（表現）する。それに答える。こうした一連の主体的な学び合いを通して思考力・判断力・表現力を高めることができた。最後にグループでの話した内容をクラス全体で意見交換することにより、更に他の考えがあることに気付く生徒も見られた。

#### 5 課題

教師の支援・評価をどのようにしていくかを、さらに工夫すると、生徒の力を高めることができるのではないかと。支援の仕方は、個別・グループ・一斉など、場面ごとに活動の様子を見ながら積極的に行いたい。また、ルーブリックを活用して教師の評価基準を明確に持てれば、意識的に生徒の活動を見ることができ、支援体制の工夫にもつながる。